

一人一人を大切にすることができる児童の育成

名古屋市立東築地小学校

1 本年度の活動とそのねらい

本校では、周りの人々との関わりを大切にし、互いのよさを認め合って生活することのできる児童を育成していきたいと日々の教育活動に取り組んでいます。昨年度は挨拶運動や児童会行事を中心に、自分に関わる一人一人を大切にし、よりよい人間関係を形成していくことを目指した実践を重ねていきました。

実践を通して、登校時に相手の目を見て気持ちのよい挨拶をしたり、児童会行事の中で高学年と低学年の児童が協力し合って行動したりする姿が見られましたが、普段の生活の中にまでそのような態度が浸透しているとは、まだ言い難い現状があります。

そこで本年度は、下の表のような発達段階に即した課題を設定して実践を行い、日々の生活の中で、児童が進んで周りの人を大切にし、よりよい人間関係を形成していこうと行動する姿を目指して人権教育を推進することにしました。

発達段階	発達課題		
	知識	価値・態度	技能
低学年	自分に関わる全ての人が大切な存在であることを知る。	自分の周りの人を大切にし、仲良く生活しようとする。	周りの人を大切にし、協力して生活することができる。
高学年	互いを尊重して行動していくことの大切さを知る。	自分の周りの人を大切にし、思いやって生活しようとする。	周りの人と協力して生活し、相手を思いやった行動をすることができる。

2 活動内容と児童の変容

(1) 実践例1 「東築地N I A活動」【全学年 児童会活動 価値的・態度的側面】

① 実践のねらい

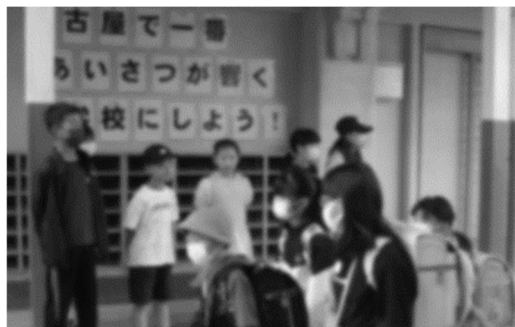
一人一人が心のこもった挨拶を自分からできるように心掛けることで、互いを大切にしようとする気持ちを高めることができますようにします。

② 実践の内容

本校では、「挨拶は気持ちのよい人間関係をつくる第一歩である」と考え、「(N)名古屋で(I)一番(A)挨拶が響く学校を目指そう」と、挨拶の習慣化に取り組んでいます。登校時には児童会の児童を中心に元気のよい挨拶の声が聞こえてきます。本年度は、校内の掲示物を増やしたり、名札の裏にいつでも入れておくことができる「メンバーズカード」を配付したりすることで、児童が挨拶の大切さをいつも身近に感じ、自分から進んで挨拶ができるようになり、よりよい人間関係づくりにつながると考え、実践に取り組みました。

③ 結果と考察

1学期の活動の振り返りでは、ほとんどの児童が「相手の目を見て、自分から進んで」挨拶することを目標に取り組んだとして、そのうち8割以上の児童が「できた」「だいたいできた」としていました。挨拶を大切にし、周りの人を大切にしようとする気持ちを高めることができたと考えます。



<挨拶運動の様子>

(2) 実践例2 「トウチクリンピック」【全学年 特別活動 技能的側面】

① 実践のねらい

全校児童集会「トウチクリンピック」での、異学年で協力する活動を通して、相手を尊重し、思いやる行動をすることができるようにします。

② 実践の内容

各学級で企画・運営する店を、異学年で構成したグループで一緒に楽しむ活動を行います。昨年度は、みんなが楽しめる店づくりをすることを目標の中心に据えていましたが、本年度はそれに加え、一緒に回る友達と楽しく過ごすことを大切にしようと考えました。そのため、自己紹介や簡単なゲームをして交流を深める「ペア交流会」の回数を増やし、仲が深まった状態で当日を迎えられるようにしました。

③ 結果と考察

はじめの頃のペア交流会では、会話もままならないような状態でありましたが、回数を重ねるうちに笑顔で過ごせるようになっていきました。店の内容を「グループで楽しめるもの」としたことによって、高学年の児童がグループの低学年の児童に優しく説明したり、低学年の児童が高学年の児童に協力したりするなど、相手を思いやる行動につながったと考えます。



<異学年グループで楽しく過ごす様子>

3 活動の成果と次年度への課題

登校時の挨拶運動では、教師や児童会の児童よりも先に元気な挨拶をする児童が増えました。また、校舎内ですれ違う児童が挨拶とともに声を掛けることが増えました。「トウチクリンピック」の事後活動では、ペアに手紙を送り合いました。そこには、当日一緒に過ごしたことだけでなく、「ペア交流会」での出来事にも触れて、「一緒に遊んで楽しかった」「優しくしてくれてありがとう」と書く児童も多くいて、異学年でのペアでの活動が有効であったと考えます。

来年度は、挨拶運動を継続するとともに、「トウチクリンピック」だけでなく年間を通した異学年交流に取り組んでいこうと考えています。人との関わりを大切にした実践を積み重ね、一人一人を大切に、互いのよさを認め合って生活することのできる児童の育成につなげていきたいと思ひます。